



明治大学現代マンガ図書館 所蔵マンガ本 目録データ作成・配架準備事業

学校法人 明治大学

概要

当館は、設立者の故・内記稔夫氏が50年以上にわたり収集したマンガ本約27万冊を保有。寄贈を受けた時点では、目録は紙の台帳で、検索・閲覧は来館者に限られていた。2011年度より、目録のデータ化作業に着手。2015年度からメディア芸術（<https://mediaarts-db.artmuseums.go.jp/>）アーカイブ推進支援事業の支援も受け、2021年には、目録データ19万件をインターネットで公開（<https://s-opac.net/Opac/search.htm?s=5YS1vzZKPBLCwv2TA9pmYx067ib>）。検索および全国から利用可能な郵送複写の提供を開始した。引き続き、本年度も目録データ作成の完遂を目指し、データに基づく、併設する米沢嘉博記念図書館とのコレクション統合を模索している。

体制／手法

- ・目録データ作成・配架準備作業は業務委託によるが、図書館内で実施することにより、対象となる資料について、協議しながらの推進を可能とした。
 - ・限られたスペースで、複数回に分けて作業サイクルを回転させた。
- 資料種別分類／既所蔵本との照合／目録データの作成／資料IDの貼付／箱番号の採番／収納

成果

雑誌資料は、作業対象が：8,832冊。

- ・目録データを作成し、出納できるよう配架したもの：7,590冊
- ・複本として判定されたもの：1,242冊

参考資料の資料種別分類（170箱）

※計画していた参考資料の書誌データ作成は、同人誌のような ISBN のない資料や、日本語以外の資料など、当館賭しての「収書・整備方針の再整理」が必要と思われるものであったため、本年度作業では、書誌データ作成の対象外とし、資料種別調査にとどめることになった。

【文化的・社会的効果】

当館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」を通して積み上げられてきた日本のマンガ文化の歴史と現在の全体像を反映する「書籍コレクション」である。アーカイブのデジタルデータ化が進み、ネット検索・閲覧・複写（著作権法第31条による）を可能とし、国内外のマンガ研究に貢献している。明治大学には、14万冊の蔵書をもつ米沢嘉博記念図書館が併設されており、目録データの整備により、両館資料の刷り合わせ、複本の判定、抜け巻の補完を行うことが可能となった。今後、両コレクションの統合に向けて、より利便性の高いアーカイブの実現を目指す。

